

グリーンライフ・ツーリズム実証モデル事業 報告書

平成 24 年 3 月

グリーンライフ・ツーリズム実証事業コンソーシアム

I. 事業の概要

1. 実施期間

平成23年5月18日～平成24年3月30日

2. 事業の目的

道内の6圏域から6ヶ所以上のグリーンライフ・ツーリズムに取り組むモデル地域を選定し、地域の受入体制づくりの支援やPRを通じて普及を図り、今後に向けた課題等を検証する。

グリーンライフ・ツーリズムとは・・・

農山漁村に比較的長期滞在しながら、農山漁村での体験や地域の人々との交流、周辺地域の観光を楽しむ観光スタイル。グリーン・ツーリズムを発展的にとらえ、北海道の中でこそ可能なライフスタイルを提案し、地域への交流人口の拡大等を旨とする考え方。これは、平成20年度に外部有識者等から成る「北海道グリーン・ツーリズムステップアップ懇話会」で、今後可能性のあるツーリズムとして提言があった概念。

3. 業務内容

(1) 受入地域支援

◎道内の6圏域から、6ヶ所以上のモデル地域を選定

◎各地域での検討会議開催やアドバイザー派遣等により、「暮らし」や「交流」を素材にした観光客向けのメニューづくりを支援

(2) PR

◎各モデル地域の滞在先や体験・交流メニュー等の情報を整理・集約して、グリーンライフ・ツーリズムのPR計画を作成し、農山漁村に関心のある都市住民や団体、旅行会社等にPRを実施

◎PR内容に関する問い合わせ窓口となり、都市住民等に情報を提供。

(3) アンケート調査

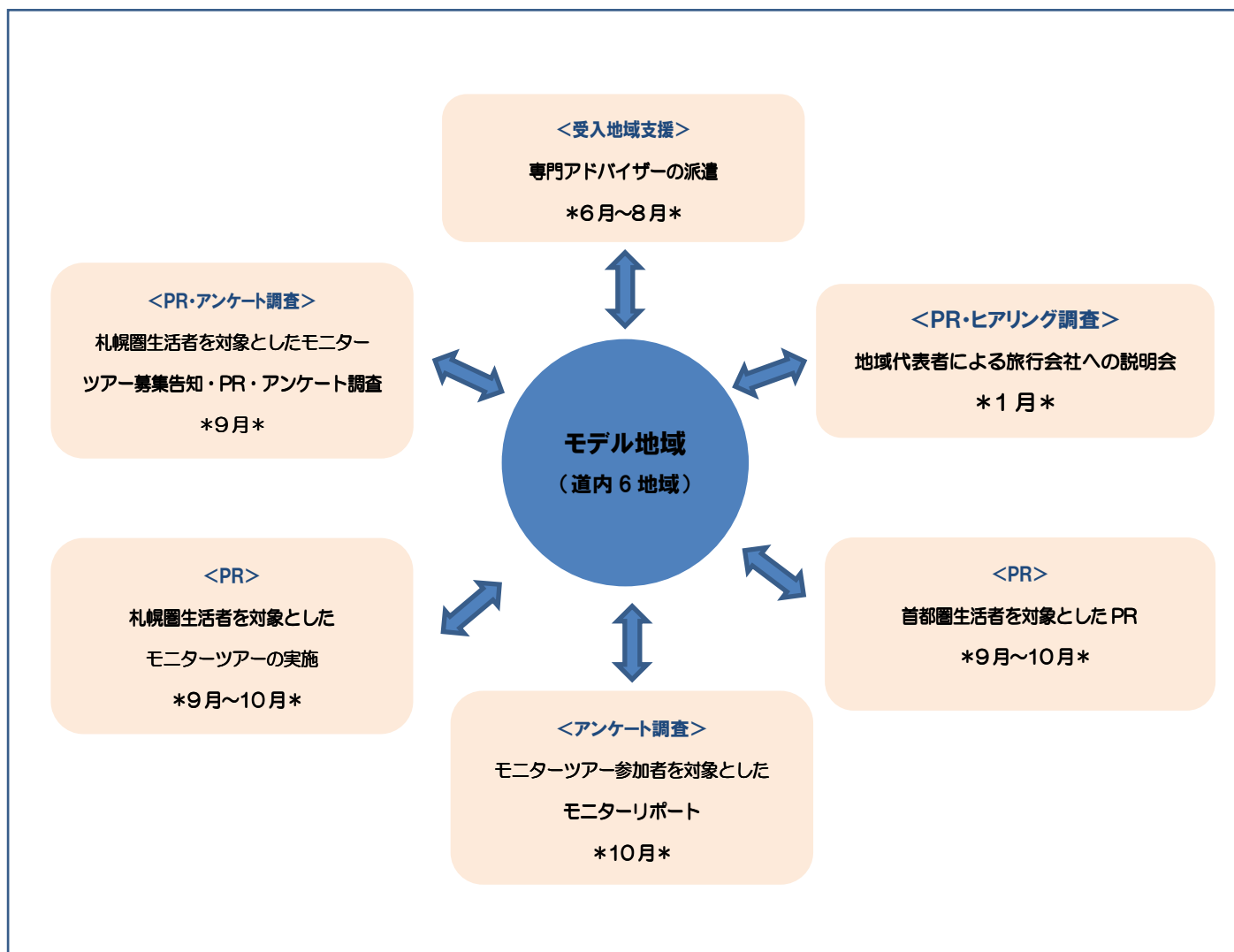
◎モデル地域の施設利用者等にアンケートを行い、グリーンライフ・ツーリズムに関する課題等を整理。

◎アンケートの整理結果と業務で実施したモデル地域への支援やPRの内容等について、報告書を作成。

Ⅱ. 実施事業

以下の事業を実施しました。

1. 展開フレーム



2. 事業スケジュール

実施日	事業名	業務内容
5月30日	モデル地域選定委員会	受入地域支援
6月24日	合同セミナー	
7月 6日～8月10日	専門アドバイザーによる地域訪問	
8月16日～17日	集中セミナー	
9月 7日～27日	モニターツアー参加者募集、 及びグリーンライフ・ツーリズムに 対する認知度調査	PR・アンケート調査
9月26日～10月 6日	モニターツアー、及びモニターレポート	PR・アンケート調査
9月30日～10月 2日	首都圏でのPRパンフ配布（約6000枚）	PR
1月23日	旅行会社への説明会	PR・ヒアリング調査

Ⅲ. 実施事業の内容

1. モデル地域選定委員会

モデル地域選定委員により、道央、道南、道北、十勝、道東（釧路総合振興局管内）、道東（根室振興局管内）圏域から、本事業のベースとなる6ヶ所のモデル地域を選定した。

(1) 実施概要

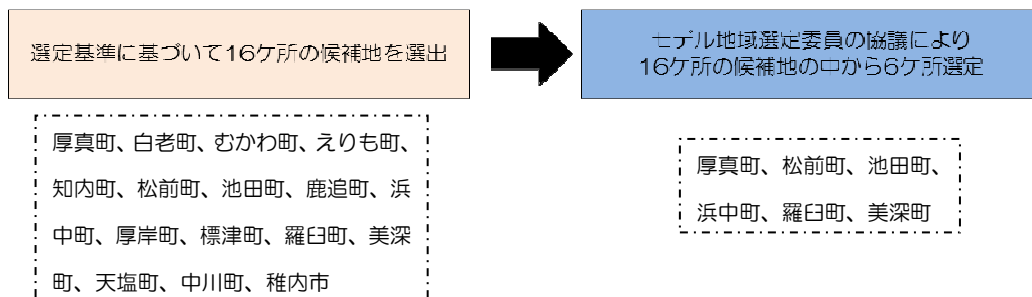
- 実施日時 平成23年5月30日（月） 13:00～15:00
- 場 所 北海道新聞社8階応接室
- 参加者 選定委員6名（3名は当事業コンソーシアム代表者）、オブザーバー3名（北海道庁経済部観光局）
※当事業コンソーシアム代表者以外の3名の選定委員については、有識者、及び旅行会社担当者に依頼した。

(2) 選定方法

モデル地域選定委員よりヒアリングし、選定基準を設けて下記フロー図の手順で選定した。

選定基準
①農山漁村であること
②やる気があり、中心となるキーマンがいること
③キーマンを中心として、事業に対するプロジェクト等を立ち上げることができる、また既に立ち上がっていること
④自治体、観光協会、農協、漁協等の理解があり、連携できる、また既に連携していること
⑤ゼロスタートではなく、成果を上げるまでに至っていないが、既にグリーンライフ・ツーリズムに取り組んでいること
⑥長期滞在が可能な施設があること

<選定までのフロー図>



(3) 選定結果と選定ポイント

圏域	選定結果と選定のポイント
道央	候補地 4 町の中から厚真町を選定 <選定のポイント> *道庁のHPをみて自ら応募し、やる気が感じられる。 *稲作体験などグリーンライフ・ツーリズムをキーワードとした体験メニューづくりに積極的に取り組んでいる。 *札幌圏、千歳空港近隣ということでアクセスの利便性が高く、将来的に有望と考えられる。
道南	候補地 2 町の中から松前町を選定 <選定のポイント> *既にツーリズム協議会が立ち上がり活動している。 *町長をはじめ、自治体主導ではあるが、町全体で取り組む姿勢が感じられる。
道北	候補地 1 市 3 町の中から美深町を選定 <選定のポイント> *2 年程前から観光に取り組んでいる。 *観光という視点で見るとまだまだスタート地点の感はあるが、地域を主導していくであろう若い人材も育ってきている。 *北の山村風景という点でも非常に魅力を感じる。
十勝	候補地 2 町の中から池田町を選定 <選定のポイント> *道東道開通に対して危機感を持ち、町民を巻き込んだ実行委員会で検討するなど、町全体でのやる気が感じられる。
道東1	釧路総合振興局管内の候補地 2 町の中から浜中町を選定 <選定のポイント> *既にツーリズム協議会が立ち上がり、漁業とも連携して活動している。 *大変にバイタリティーのあるキーマンがいる *酪農、漁業が基幹産業であり素晴らしい食素材がある。 *自然環境も充実している。
道東2	オホーツク総合振興局、根室振興局管内の候補地 2 町の中から羅臼町を選定 <選定のポイント> *4 年程前から観光に取り組み、協議会を立ち上げた。 *北海道ならではの自然風景がある。 *漁業が基幹産業であり、日本でも有数の食素材がある。

2. 合同セミナーについて

6ヶ所のモデル地域の方にお集まりいただき、本事業の説明、事前に提出していただいた調査票に基づき、専門アドバイザーの方とともに各地域の課題や現状等について話し合った。

(1) 実施概要

- 実施日時 平成23年6月24日（金） 15:00～19:30
- 場 所 北海道新聞社8階会議室
- 参加者 モデル地域代表者10名、専門アドバイザー5名（3名は当事業コンソーシアム代表者）、オブザーバー3名（北海道庁経済部観光局）、事務局4名
※当事業コンソーシアム代表者以外の2名の選定委員については、有識者、及び旅行会社担当者に依頼した。

(2) 討議内容

以下の課題や意見が出された。

①地域側より

- ・ 役場主導で3年前に観光協会、漁業関係者と連携してツーリズム協議会を立ち上げたが、地域内連携において広がっていない。
- ・ 農業関係者の方に協力していただきたいが、農家の方は農業が本業。理解していただくのに苦労している。
- ・ 旬の食を提供するイベントを開催している。当初、町民をターゲットとしたイベントだったが、旅行会社へのPRにより、現在は6割から7割が旅行客。売上も伸びた。当初は、消極的だった地元の漁業関係者も、現在は積極的に協力してくれる。新しい漁業体験メニューも開発できた。収益性を持たせることで協力しやすい環境を作ることが重要だと思う。
- ・ 民間レベルで盛り上がっていくのがベストだが、まだ一部の方の協力で取り組んでいる。現在、地元の調理師会の協力で地元の食材を使った新メニューを開発している。
- ・ 4年前、公募で若い女性を観光協会事務局長として採用した。事務局長の主導により協力的でやる気のある若い人材が育ってきた。まだまだであるが、観光に対する意識という点で環境が整ってきた。
- ・ 宿泊施設が不足している。

②専門アドバイザーより

- ・ 地域内を調整して連携を広げていくのは一番エネルギーを使う。
グリーンツーリズムの先進地といわれているある町でも、今でこそ農業関係者の方も観光協会に参加しているが、そこに至るまでに15年かかっている。
各地域で置かれている環境は違うが、調整には大変時間がかかる。いきなり民間の方が熱意をもって協力してくれるわけではない。やはり、自治体が主導で引っ張っていくべきと思う。ただし、自治体主導で進めていく場合、人事異動で担当者が変

わるのは問題。

- ・地域には活きのいいもの、旬のものがある。地元が持っている食の優位性をもっと生かすべき。旅行の場合、口コミの力が大きい。地域だけではなく我々旅行会社も企画を立てる際に陥りやすいが、地元の見線だけで考えていてもなかなか発信の転換が難しい。PRする時に、外から見た時に我々の地域がどう思われているか再度考えてみてはどうか。つまりは地元の再発見。そこから新しいものも見えてくるのではないか。
- ・PRについてだが、常にマスコミに情報発信していくことが必要。また、今はTwitter、SNSなど様々な情報発信方法がある。口コミの媒体としては非常に有効。情報発信を通していかにファンを増やしていくかが重要ではないか？
- ・今後、秋に予定しているモニターツアープランを考えていただくが、マーケティングの視点で言うと、だれのための商品化というターゲットを明確にするにすることが重要。女性なのか、男性なのか。若者なのか中高年なのか。夫婦なのか、女性グループなのかといったこと。ターゲットによってプランの組み立てや、たとえば情報発信の切り口も変わってくる。

3. 専門アドバイザーによる地域訪問について

それぞれ2名のアドバイザーがそれぞれ1泊2日の日程で地域を訪問し、

◎グリーンライフ・ツーリズムをキーワードとした体験メニュー等

◎食

◎宿泊

上記3つの視点で地域を視察し、地域の方と話し合いながらモニターツアーの方向性について助言した。

<訪問日程>

日程	訪問地
7月5日～6日	道南圏域松前町
7月18日～19日	十勝圏域池田町
8月1日～2日	道東圏域（根室振興局管内）羅臼町
8月4日～5日	道東圏域（釧路総合振興局管内）浜中町
8月8日～9日	道央圏域厚真町
8月10日～11日	道北圏域美深町

4. 集中セミナーについて

上記2の合同セミナー、3のアドバイザー訪問の助言を基に、各地域の方に2泊3日のモニターツアープランを立案していただき、立案したプランについて、専門アドバイザー、地域から参加された方の全員で話し合いながらプランを修正し、構築した。
話し合いの結果、D町のみ1泊2日のツアーとした。

<実施概要>

■実施日時 平成23年8月16日（火）・17日（水）
16日 13:00～19:00
17日 9:00～12:00

■場 所 然別湖ホテル福原

■参加者 モデル地域代表者11名、専門アドバイザー4名（3名は当事業コンソーシアム代表者）、事務局4名

5. モニターツアー参加者募集について

北海道新聞紙面により、札幌及び周辺地域を対象として2地域づつ各3段×3回でモニターツアー参加者を募集した。

掲載スペースに限りはあったが、募集要項と併せて、地域やツアーの特色を表すキャッチコピーとともにツアー行程を掲載し、PRした。

また、ツアー企画主催として、日本旅行北海道、近畿日本ツーリスト北海道、アークストラベルにご協力いただいた。

併せて、応募の際に、全応募者を対象としてグリーンライフ・ツーリズム、及び地域の認知度調査を行った。

(1) 募集人数、及び北海道新聞掲載日、募集期間

	ツアー	掲載日	募集期間
第1弾	松前町モニターツアー ----- 羅臼町モニターツアー	9月 7日（水）	～9月18日（日）
第2弾	美深町モニターツアー ----- 浜中町モニターツアー	9月14日（水）	～9月22日（木）
第3弾	厚真町モニターツアー ----- 池田町モニターツアー	9月19日（月）	～9月27日（火）

(2) 募集要項

- 参加費 無料。ただし、体験レポート（感想文）を提出いただける方
- 集合・解散 JR 札幌駅
- 応募方法 アンケートの回答と希望地域、参加される方の氏名、年齢、連絡先電話番号、携帯番号、E-mail アドレスを記入の上、ハガキ、FAX、E-mail で応募する
- 応募宛先 一社）北海道体験観光推進協議会内 GLT 係

(3) ツアーのキャッチコピーと募集ターゲット、募集人数

キャッチコピー	ターゲット&人数
いのち満ちる ^{みのり} の里あつま、大いなる田園の町。	ペア 5 組 10 名
やさしい城下町で、夫婦の絆を再発見	ご夫婦 4 組 8 名
豊かな水と緑の郷で、羊をめぐる冒険を・・・	3 組 6 名～9 名
ワイン文化に触れる、スローライフな旅。	2～3 名の女性ペア、グループ 4 組 10 名
自然王国はまなかを体感・食感する旅へ。	女性ペア 5 組 10 名
知床羅臼で、感動の大自然と産業に触れる。	4 組 8 名

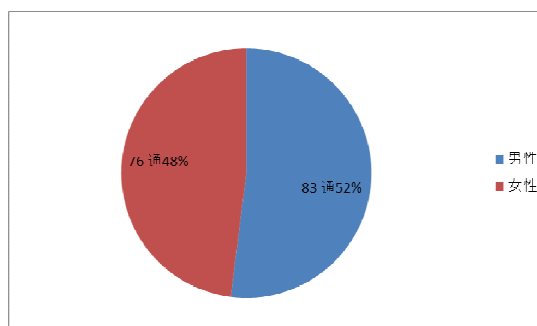
(4) 応募数

	応募総数（通・組）	有効応募数（通・組）	有効人数（名）
厚真町ツアー	31	29	58
松前町ツアー	35	29	58
美深町ツアー	26	25	54
池田町ツアー	20	18	38
浜中町ツアー	23	22	44
羅臼町ツアー	41	36	72
合計	176	159	324

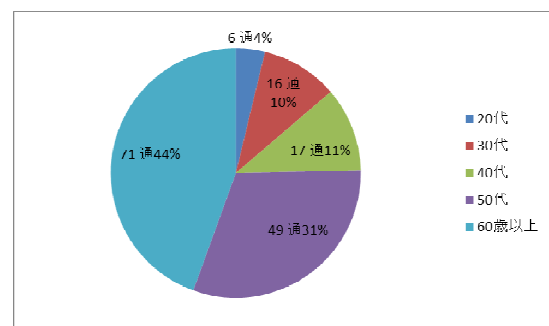
※記載事項が不完全の方を削除した応募数を有効応募数とした。

<有効応募数（159通）の属性>

①男女別比率



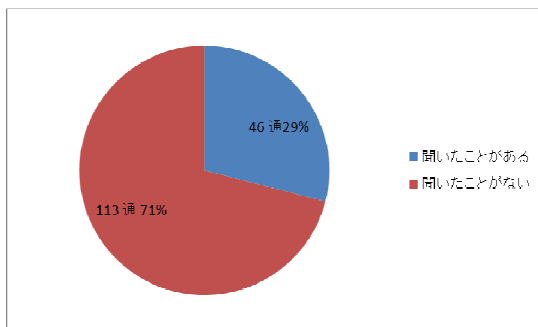
②年齢別比率



(5) アンケート結果 * 募集時に実施

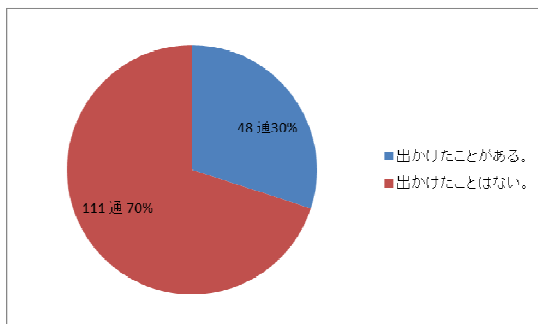
Q1. グリーンライフ・ツーリズムという言葉聞いたことがありますか？ (有効応募数 159 通)

29%の方が「聞いたことがある」と回答されたが、多くの方が「グリーン・ツーリズムは、聞いたことがある」と記入されていた。グリーンライフ・ツーリズムという言葉や意味に対する認知度は、まだまだ低いと考えられる。



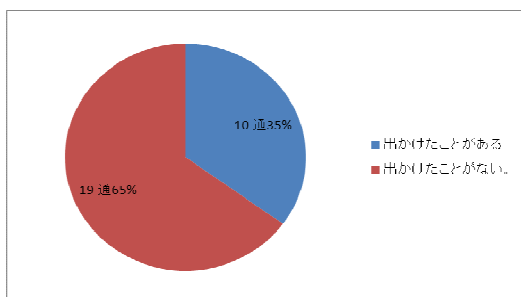
Q2. 応募地域に出かけたことはありますか？ (有効応募数 159 通)

30%の方が「出かけたことがある」と回答された。

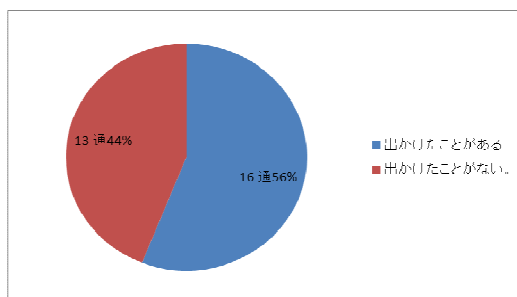


地域別に集計した結果は以下であるが、桜の町として認知度があるB町のみ半数以上の方が「出かけたことがある」と回答されたが、他地域は半数に満たなかった。

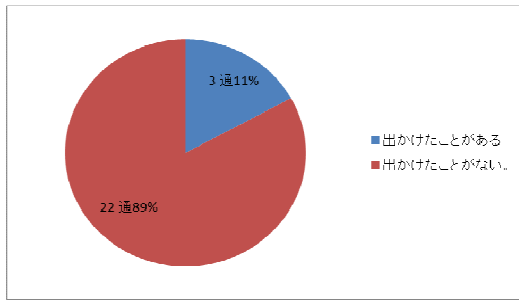
<厚真町> (有効応募数 29 通)



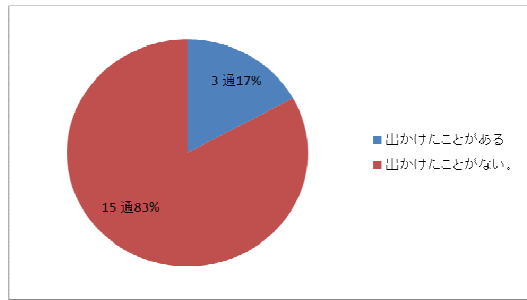
<松前町> (有効応募数 29 通)



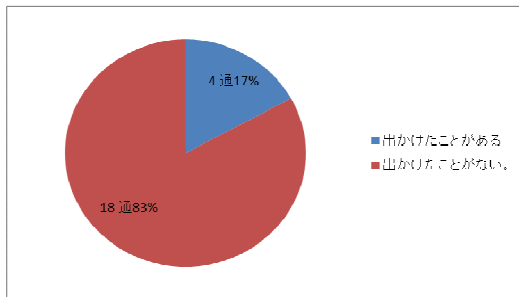
＜美深町＞（有効応募数 25 通）



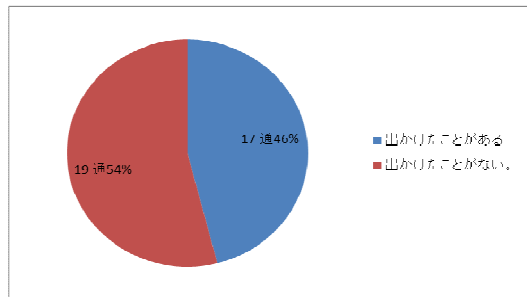
＜池田町＞（有効応募数 18 通）



＜浜中町＞（有効応募数 22 通）

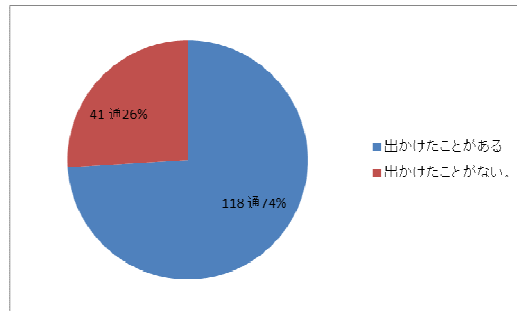


＜羅臼町＞（有効応募数 36 通）



Q3. 農山漁村に出かけたことはありますか？（有効応募数 159 通）

74%の方が「出かけたことがある」と回答されたが、日帰りや通過しただけという記入が多く見受けられた。



6. モニターツアー実施について

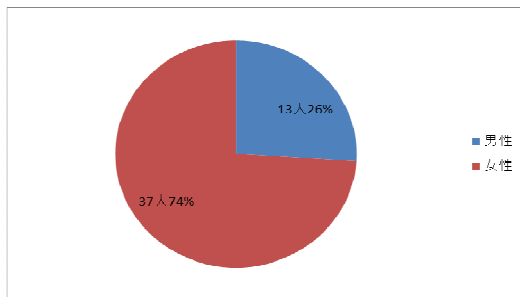
前述のモニターツアー応募者の中から抽選により、モニターを選出し、ツアーを実施した。ツアーの様子については、北海道新聞、室蘭民報で記事として取り上げていただいた。

（1）ツアー実施日とモニター数

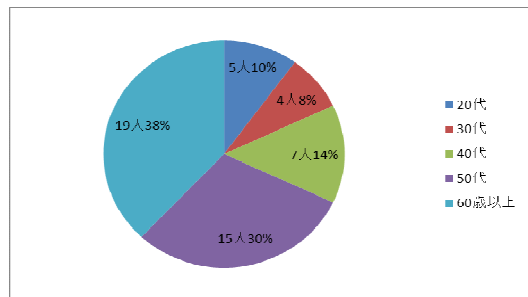
	実施日	モニター数
厚真町ツアー	10月5日（水）～7日（金）	5組 10人
松前町ツアー	9月26日（月）～28日（水）	4組 8人
美深町ツアー	9月30日（金）～10月2日（日）	3組 6人
池田町ツアー	10月5日（水）～6日（木）	4組 8人
浜中町ツアー	10月4日（火）～6日（木）	5組 10人
羅臼町ツアー	9月27日（火）～29日（木）	4組 8人
	計	25組 50人

(2) モニター（50人）の属性

①男女構成



②年齢構成



(3) ツアー行程

①厚真町モニターツアー

10/5	札幌駅[9:00]=バス=厚真着[10:30]=体験観光【稲刈り体験、餅つき体験&農機具体験】=事前学習【出土品鑑賞】=体験観光【発掘体験、遺跡見学】=宿（夕食・あつま御膳）=自然体験【星空見学】=宿
10/6	朝食[7:00]=体験観光【こくわ狩り、いも堀り】=ドライブイン本郷（昼食）=体験観光【こくわ・ハスカップジャム作り】=宿（夕食・BBQ）
10/7	朝食[7:00]=宿出発[8:50]=見学【発電所】=高寿司（昼食）=見学【炭焼き窯見学】=厚真発[14:30]=バス=札幌駅着[16:00]

②松前町モニターツアー

9/26	札幌駅[8:34発]=スーパー北斗6号=八雲駅[10:57着]=バス=上の国もんじゅ（昼食）=松前藩屋敷[14:40着]=体験観光【松前藩屋敷ガイド、桜のマイ箸作り（モニターツアー限定）北海道発祥の植物物語ガイド、法幢寺鑑賞・住職講和】=自由時間=居酒屋こはる（夕食）=宿
9/27	朝食[7:00~9:00]=体験観光【まぐろの水揚げ見学、松前漬体験】=三久本店（昼食）=体験観光【べこ餅作り体験（モニターツアー限定）】=絶景スポット見学【ガンピ台、札前二つ岩での願掛け】=宿（夕食）
9/28	朝食[7:00~9:00]=自由時間=バス[10:50発]=道の駅・北前船松前【小ガイド】=果林（昼食）=八雲駅[16:12発]=スーパー北斗13号=札幌駅[18:35着]

③美深町モニターツアー

9/30	札幌駅[7:48発]=スーパー宗谷1号=美深駅[10:26着]=ガイド付き見学【旧国鉄美幸線資料館、美深町郷土資料館】=地元のお母さんの手作り昼食（昼食）=体験観光【天塩川紅葉満喫力ヌー体験】※雨天時は「ひふか温泉陶芸体験」=ひふか温泉（入浴）=宿（夕食）
10/1	朝食[7:30]=体験観光【松山農場・羊乳搾り体験】[8:30]=体験観光【松山湿原登山】※雨天時は「羊毛加工体験」=見学【仁宇布の冷水、雨霧の滝】=宿（昼食・白樺樹液力レー）=美深アート体験【白樺樹皮加工体験】=宿（夕食・BBQ）
10/2	朝食[8:00]=宿出発[9:00]=体験観光【トロッコ王国美深、チーズ工房飼い】=道の駅ひふか=「函岳」見学=美深駅[16:12発]=サロベツ=札幌駅[19:08着]

④池田町モニターツアー

10/5	札幌駅[9:04]=スーパーおおぞら3号=池田駅[11:51]=まきばの家(昼食・ランチブッフエ) =体験観光【ぶどう収穫体験、ワイン徐硬破碎と压榨による小仕込体験】=池田清見温泉(入浴、 希望者のみ)=寿楽の息子(夕食)=宿
10/6	朝食[7:30]=宿出発[8:45]=見学(シーブドッグショー、風とひつじの丘)=加工体験【羊毛加 工体験】=ご馳走や ゆたか(昼食)=加工体験【ルバーブジャム作り体験】=見学【ドリカム 資料館またはワイン城】=池田駅[14:39]=スーパーおおぞら10号=札幌駅[17:17]

⑤浜中町モニターツアー

10/4	札幌駅[7:03発]=スーパーおおぞら1号=釧路駅[10:51着/11:01発]=厚岸駅[11:47]= 喫茶やちぼうず(昼食)=自然体験【霧多布湿原トレッキング】=体験観光【酪農見学・体験】 =宿(夕食)
10/5	体験観光【霧多布港水揚げ見学】[6:00]=旅館くりもと(朝食)[7:30]=[8:30]= 「MO-TTOかせて」にて加工体験【アイスクリーム作り、手がけおぼろ昆布作り】= BBQ(昼食)=加工体験【さんま缶詰作り】=見学(霧多布岬、アゼチの岬)=霧多布湿原 ゆうゆ(入浴)=寿司のひらの(夕食)=宿
10/6	朝食[7:30]=宿出発[8:45]=見学【昆布保管施設、琵琶瀬展望台】=加工体験【ウニ剥き・ 瓶詰体験】=厚岸駅[12:24発]=お弁当(昼食)=釧路駅[13:05着/13:25発]=スーパー おおぞら10号=札幌駅[17:17]

⑥羅臼町モニターツアー

9/27	札幌駅[8:00発]=バス・お弁当(昼食)=知床峠=羅臼[15:30着]=宿(夕食・郷土芸能知床いぶき樽 ・北方領土元島民による語り部)
9/28	漁港[6:15]=【海洋深層水を使用した秋鮭荷揚げとセリ見学】=浜のかあちゃん食堂(朝食)=体験観光 【国後島ホエールウォッチング】=浜っこやまちゃん(昼食・海の幸のBBQ)=体験観光【ホッケ開き 製造】=食事処 鱈(夕食)=宿
9/29	朝食[7:30]=バス=羅臼ビューポイント【相泊・セセキエリア】=大人の社会科見学【ウニ種苗セン ター・昆布倉庫】=道の駅 知床・らうす(昼食・羅臼バーガー)=標津=札幌駅[19:00着]

7. モニターレポートについて

各地域における課題を把握するために、4項目について4つの基準で評価していただき、レポートをご提出いただいた。

<評価項目>

- ①体験や見学 ②宿泊施設 ③食事 ④その他、総合的な評価

<評価基準>

- A(大変よかった) B(まあまあよかった)
C(あまりよくなかった) D(よくなかった)

(1) リポート数

各組ごとに体験リポートをお寄せいただいた。

厚真町モニターリポート	5通
松前町モニターリポート	4通
美深町モニターリポート	3通
池田町モニターリポート	4通
浜中町モニターリポート	5通
羅臼町モニターリポート	4通
計	25通

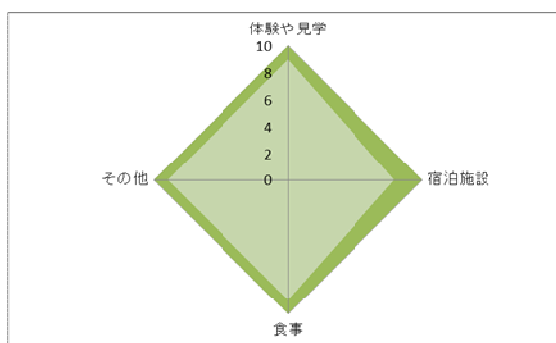
(2) 各ツアーに対するモニターの評価

以下は、モニターの評価をA（大変よかった）/10ポイント、B（まあまあよかった）/7ポイント、C（あまりよくなかった）/4ポイント、D（よくなかった）/1ポイントとして項目別に集計した平均点と、平均点を示したレーダー図である。

表が示す通り、概ね高評価であったが、宿泊施設については、2地域がA評価、1地域がA評価とB評価の間、2地域がB評価、1地域はB評価に届かなかった。

<全体評価>

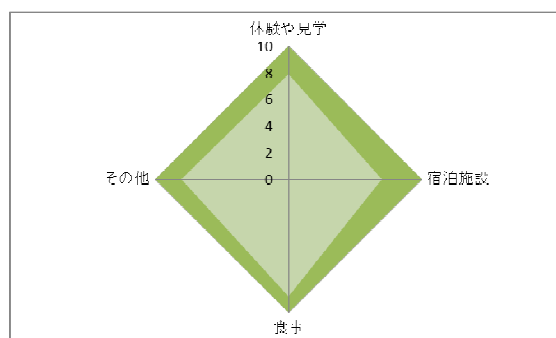
評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	8.99/10
宿泊施設	7.94/10
食事	8.96/10
その他	8.99/10



<ツアー別評価>

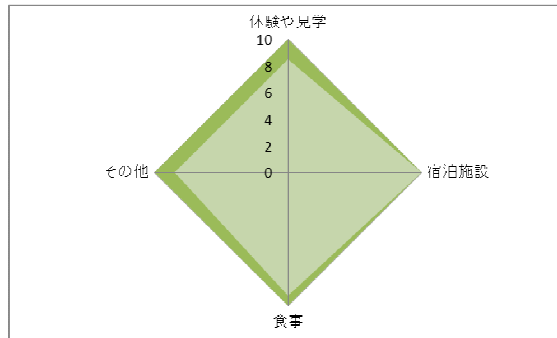
①厚真町ツアー評価

評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	7.9/10
宿泊施設	7.0/10
食事	8.8/10
その他	8.05/10



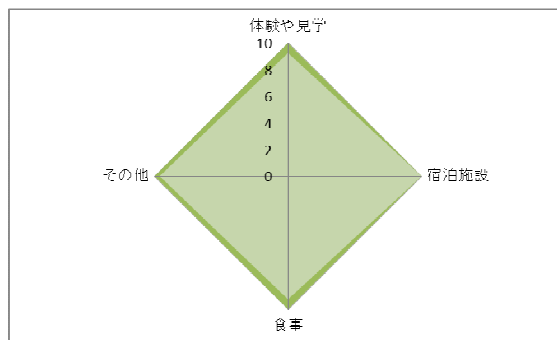
②松前町ツアー評価

評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	8.5/10
宿泊施設	10.0/10
食事	9.25/10
その他	8.5/10



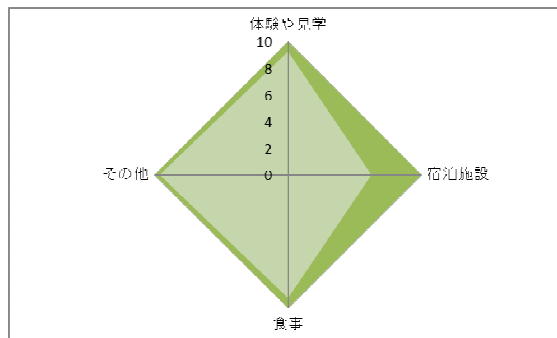
③美深町ツアー評価

評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	9.25/10
宿泊施設	10.0/10
食事	9.25/10
その他	9.63/10



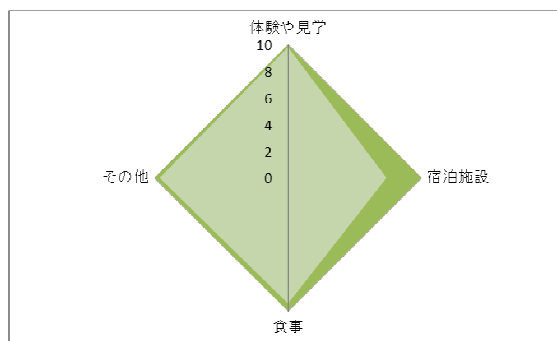
④池田町ツアー評価

評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	9.25/10
宿泊施設	6.25/10
食事	9.25/10
その他	9.63/10



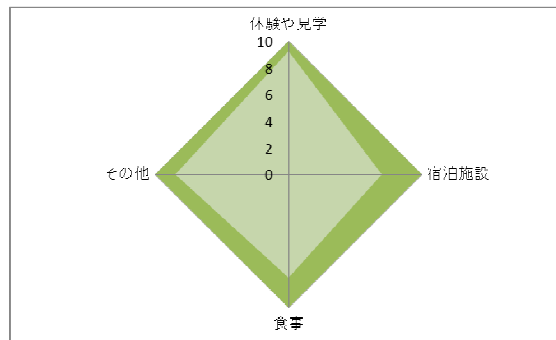
⑤浜中町ツアー評価

評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	9.81/10
宿泊施設	7.38/10
食事	9.44/10
その他	9.63/10



⑥羅臼町ツアー

評価項目	平均評価 point/10point
体験や見学	9.25/10
宿泊施設	7.0/10
食事	7.8/10
その他	8.5/10



(3) 各ツアーに対するモニターの意見・感想

以下に、モニターの主な意見や感想を抜粋する。

①厚真町モニターツアー

- * 地域の人、案内役の担当者の熱意が伝わり、大変印象に残った。
- * 遺跡発掘体験は、めったに経験できない体験で、生まれ育った北海道の歴史に改めて興味を持った。
- * 体験が盛り沢山なのはよいが、種類によって時間が足りないと感じた。
- * 地元の食材にこだわった食卓は何を食べても美味しく、素材の味を再確認した。
- * この様なツアーは北海道の魅力を再認識する絶好の機会です、もっとPRすべき
- * 旅行の概念が変わり、参加型の旅行の楽しさを知った。
- * 人間の生き様を考える素敵な時間をいただいた。
- * もっと町民とのふれあいの時間があってもよかった。
- * 参加者の主たる対象をどの年齢層に想定しているのかによって評価が異なる気がする。中高年向けの新しい観光スタイルの提案となると、体験や作業を通じての交流が主体となると思う。
- * 今回参加した方が期待したことは、その場所に行かなければできない体験や特産物をいただくこと、地元の方々とふれあいながら、のんびりと非日常生活を楽しむこと。そういう意味では接待しすぎ。もう少し、主体的な役割を多めに設定しなければ、全て受け身のお客さんの旅になってしまうと思う。
- * 札幌からもそれほど遠くなく、美味しいものがたくさんあることがわかったので、また訪れたいと思っている。

ほか

②松前町モニターツアー

- * 旅のコンセプトを3日間の行程の中でストーリーだててうまくまとめているなーと感じた。
- * 「マイ箸づくり」は、子どもからお年寄りまで楽しめて良いアイデアだと思う。
- * 「マグロの水揚げ」は滅多に見られないので貴重な体験となった。
- * 宿泊施設は、期待以上で、ここに泊まるだけの目的でB町に来てよかった。
- * 観光旅行なら一度きりになってしまう。今回、体験を行った事で、今までの旅行の中で一番中身が濃かった。
- * 素晴らしいガイドだった。郷土愛が強く伝わってきた。知人、友人にB町をPRしている。
- * 今回の旅行は、地域をよく知るところから始まった。歴史的背景や近隣市町村、地域の魅力や特色、人々とのコミュニケーション、山海の特産物、どれもが知れば知るほど、旅行が楽しくなっていった。

- * 今回のツアーは、その地方の生活が体験でき、その地方の理解者として、応援したくなった。
- * B町の方の熱意が伝わった。朝 1 時間ほど、散歩をしたが、地元の方が気さくに挨拶をしてくれ、そんな所からも町全体で観光を盛り上げている感じがかった。

ほか

③美深町モニターツアー

- * 案内してくれた観光協会の 2 人のきめ細かい受入れ計画・心配りに感心した。若い二人の頑張りでも内容の濃いツアーになった。
- * 郷土資料館を見学した。展示内容は良かったが、職員の方は展示物に対する勉強不足と感じた。
- * 地域の方たちとの生活交流や新しい観光のあり方を知り、有意義な体験をさせていただいた。
- * オーナ夫妻の人柄がよく快適に 2 泊できた。羊の肉や乳、チーズを使ったグラタンも最高だった。
- * 地元の食材を生かした「おかあさんの手作り弁当」、大満足だった。
- * タイムスケジュール表に手作り感があり、案内や写真が理解しやすくて良かった。
- * 素材の原石が沢山あるように感じたが、通過点ではなく滞在していただくためにはどうしたらよいかという点が課題では。
- * カヌーに乗ってみて違った目線から眺める水面や風景に感動した。料金が高額なので、料金体系に工夫がなければ気軽に何回も乗船できないと感じた。
- * カヌーガイドの対応に少し疑問を感じた。悪天候の中、参加者の服装を考えての出発だったのか？艇を岸に引き上げるのを参加者に手伝わせるのはいかがなものか。

ほか

④池田町モニターツアー

- * 案内してくれたスタッフの細やかな対応に感心した。
- * ワイン城、ワインの町というイメージだったが、新鮮な食材と美味しい料理、壮大な自然と景色、五感を刺激する体験と大変充実した旅だった。
- * 札幌から遠いイメージだったが、JR で 2 時間 40 分とわりと近いと感じた。
- * 近所の方にも D 町を PR している。
- * 主人の定年後に、沖縄、京都などを少し滞在しながらゆっくり旅行したいと思っていたが、今回の旅行で北海道の中にも知らないいいところがあるんだとわかり、道内もじっくりまわろうという気持ちになった。
- * 子供づれの家族での旅行には、適さないのかーと感じた。
- * これといったお土産がなかったのが残念。

ほか

⑤浜中町モニターツアー

- * 案内してくれた役場の方の熱意が伝わった。
- * 立派な加工体験施設があり、子どもたちに是非豊かな自然と産物で加工体験してほしいと思った。夏には孫家族と浜中町に行く事が決まった。
- * 普段飲めない無殺菌牛乳が美味しかった。どれだけの手間と時間がかかっているのかを知り、100%浜中の牛乳を使っている某有名アイスクリームが美味しい理由がわかった。
- * “日帰りサンマ” は、当日まで聞いたことがなかった。ブランド化してもっと PR しては。
- * “日帰りサンマ” の缶詰を作り大変感激した。今回、初めて自分でさばいて、手間暇かけて作った

ので、出来上がった缶詰が宝物のように思いしばらく大事に飾っている。

- *ウニの殻むき初体験。都会ではぜったい経験できない。味も最高。
- *露店風呂から眺める太平洋、湿原は絶景だった。風呂上りにいただいた牛乳も、札幌では飲めない美味しさだった。ただし、露店風呂が狭かったのが残念。
- *宿泊施設の汚れが気になった。シーツ、枕カバー、タオルケットは交換した方がよい。
- *食事は大変おいしかったが、和食中心だったので、食材は同じでも和・洋・中のようなバラエティーがあってもいいと感じた。

ほか

⑥羅臼町モニターツアー

- *ホッケの開き体験は、「グリーンライフ・ツーリズム」の本来の目的に合致していると思う。魚離れが進む今だからこそ、普段なかなか体験できないことに興味や感動が生まれると思う。
- *初めて鮭とイカの荷揚げを見た。生産者の立場を理解し「いただきます」という言葉の意味を再確認した。
- *ホエールウォッチングに大変感動した。
- *旅の楽しみの一つとして食事は重要だと思う。1日目の夕食の量が多く、残すのが悪い気がして「もったいない」と感じた。
また、生ものばかりで味に飽きてしまった。新鮮だからということはあるが、調理の工夫も必要だと感じた。
- *「体験型・交流型旅行」の需要は、今後ますます高くなると思う。そういった意味で修学旅行生などにはおすすめできる観光地であると感じた。
- *体験や見学がなければ見る場所が少なく1日だけの訪問になったと思う。体験を通して好印象のツアーになった。
- *国後島が目に見えるため領土問題を肌で感じたが、北方領土に関するインフォメーションがなかった。展示や資料がほしいと感じた。
- *全国から集まった約100隻のイカ釣り船が一斉に出航するのは圧巻。この様子を見るだけでも十分にF町を訪れる価値があると感じた。
- *札幌からの移動時間が長い。十勝の農業や牧場、山村系のグリーンライフ・ツーリズムと連携したツアー開発が必要だと思う。

8. 首都圏でのPRについて

平成23年9月30日～10月2日に東京代々木公園で開催された「第23回北海道フェア in 代々木」会場で、モデル地域を紹介するパンフレット（A4版仕上げ、3つ折り）を約6000枚配布した。

9. 旅行会社への説明会について

旅行会社の方にお集まりいただき、各地域代表者より、グリーンライフ・ツーリズムをキーワードとした体験メニューやモデルプランを説明し、今後の課題や方向性についてご意見などうかがった。

(1) 実施概要

■実施日時 平成24年1月23日（月）13:30～16:00

■場 所 北海道新聞社7階特別会議室

■参加者

＜旅行会社＞

近畿日本ツーリスト北海道、JTB北海道、日本旅行、トップツアー、JR北海道

5社6名

＜モデル地域＞ 代表者10名

＜事務局＞ 4名

(2) 旅行会社からの意見・感想等

参加した旅行会社担当者より以下の意見や感想が寄せられた。

*素材が素晴らしい。テーマ性、ストーリー性があり、オンリーワンのものが散りばめられている。

もっとPRするとツーリズムに転換できる。

*ターゲットが不明確。だれのための商品なのかターゲットを明確した方がよい。

*オリジナリティーがあり、コースも練られていて勉強になった。ツーリズムの可能性を秘めている。

*近隣市町村と連携することで、より魅力的なコースになる。

*旅行会社の要望として、一括で予約できるシステムがほしい。

*行程がつまり過ぎていると感じた。天気によって左右される部分もあるので、無理をしない部分も必要。

*今日の説明を真摯に受けとめて、商品を作っていきたいと思う。

ほか

IV. 本事業を通じたモデル地域における課題と方向性

本事業に参加したモニターレポート、旅行会社の意見を基に、各地域を訪問し、各地域の方とともに本事業を推進した専門アドバイザーとともに各モデル地域における課題と今後の方向性について検討した。以下にまとめる。

<p>厚真町</p>	<p>こくわ狩り、遺跡体験など観光素材に潜在的な魅力があり、札幌圏、千歳空港からのアクセスも良好。多様な受入れが期待できる。</p> <p>まずは官民一体となったブランディング発信が急務。幸い自治体には、旗振り役となる逸材があり、民間業者の意識向上がカギではないか？意識向上による受入体制（組織やガイド）の構築が急務と考える。宿泊収容力の課題も残っており、即応性の観点では、短期滞在型、もしくは広域連携を含めた通過型からの始動が現実的。観光素材は、むしろ修学旅行をはじめとする学生団体に最適と考える。</p>
<p>松前町</p>	<p>北海道でも独自の歴史・文化を有しており、市場の受容性はかなり有効と考える。また、2015年の新幹線延伸で北関東以北からの集客が期待できる。</p> <p>「桜」「歴史」など認知度の高い観光素材に加え、今ツアーで実施した「食」の体験素材や「自然景観」のPRが必要。比較的温暖な気候だけに、オールシーズンで受入れできるプログラム策定にも期待したい。受入れ体制整備が今後の課題。</p>
<p>美深町</p>	<p>グリーンライフ・ツーリズムに特化した観光促進に適した地域である。札幌からJR利用で3時間以内とアクセス環境もよい。潜在力は高いと考える。</p> <p>厳しい気象条件を踏まえ、期間を絞り好評・好印象を与えられる商品の造りが求められる。地域特性のある特徴的な素材が多いので、ベストシーズンという“切り口”と共に、希少性をアピールしたい。具体的な推進策としては、ファームイントント滞在を軸としたパッケージツアーが取り扱いやすい様に思われる。そのためには、各施設間連携が不可欠である。また雨天時のプログラムの工夫が必要である。</p>
<p>池田町</p>	<p>10年程前までは十勝圏域有数の観光地。知名度は申し分ないので、グリーンライフ・ツーリズムの“ライフ”の具現化に注目したい。</p> <p>課題は、宿泊収容力に尽きる。現状では、十勝川温泉、然別温泉、糠平温泉郷及び帯広市内など近隣地域と連携したプロモーションが必要である。観光素材は「食」をベースとしたモノ、地域産業と密接に関連するモノなどを組み合わせてバリエーション豊かなプログラムの提供が期待できる。他地域と比較すると、各施設の受入れ体制は、ハード・ソフト面共に成熟している。樽ころがしやワイン祭りなどをフックとしたグリーンライフ・ツーリズムプログラム開発に期待したい。</p>
<p>浜中町</p>	<p>自然・産業などの素材のクオリティは高い。道東の魅力を凝縮した観光推進に期待する。</p> <p>首都圏、道央圏からのアクセスに難があるが、補って余りある観光素材がそろっている。修学旅行をはじめ、大口団体の受入実績もあるが、グリーンライフ・ツーリズム基点での地域誘客は個人・家族、及び小グループ向けが適切と考える。高品質を求める購買層に対し、洗練された浜中町ブランド提供が得策と考える。</p>
<p>羅臼町</p>	<p>素材の充実度は、トップクラス。観光に注力した今後の動向次第で飛躍する。</p> <p>実踏調査も含めて、素材の素晴らしさに改めて感動させられた。各ビューポイントからの景観、主力産業である漁業と関連した体験素材や施設見学。まさにF町ならではのオンリーワン素材である。課題は、滞在型に向けた受入体制であり、各施設が今回のモニターツアーと同様な対応ができるか疑問。今回のモニターツアーをキッカケとして、地域が連携して観光促進に目が向くことに期待したい。</p>

V. まとめ

本事業の一つとして実施したモニターツアー、及び旅行会社説明会において、第一次産業と連携した体験メニューや地域だからこそ味わうことができる新鮮な旬の「食」は、モニター、旅行会社担当者より高い評価を得ました。

また、「体験」や「食」に関わる地域住民との交流は、新鮮な感動による地域への興味を喚起し、「行った地域をPRしたい」「夏休みに家族と行くことにしている」など、グリーンライフ・ツーリズムの取り組みは、リピーター、及び口コミ効果が期待できる地域ファン層獲得に大変効果的だと考えます。

北海道には、第一次産業と観光の連携による地域活性化を目ざしている地域が多く、その地域特性から、グリーンライフ・ツーリズムに適した地域といえます。
また、昨今、特に東日本大震災以降、安全・安心な「環境」「食」に対する関心が大変高まっています。グリーンライフ・ツーリズムをキーワードとして、北海道各地に潜在する様々な観光素材を造成していくことにより、新たな北海道の楽しみ方として、地域活性化、北海道観光の活性化に繋がるものと考えます。

ただし、観光素材を造成していくためには

- 地域の核となる組織の構築
- 組織、地域を牽引していく人材の育成
- ビジネスとして継続していくためのノウハウの形成

など、受入体制に関する多くの課題があります。

本事業で実証されたことを基に、北海道観光活性化のための一つの方策としてグリーンライフ・ツーリズムを明確に打ち出し、課題に向けた継続的な施策により地域を支援していくべきと考えます。